

令和4年度第2回立川市第3次観光振興計画協議会 要旨

会議名称	立川市第3次観光振興計画協議会
開催日時	令和5年3月16日（木曜日） 午後7時00分～午後9時00分
開催場所	立川市役所 210 会議室
次第	<ol style="list-style-type: none"> 1. 開会 2. 総合政策部長挨拶 3. 委嘱状伝達 4. 自己紹介 5. 議題 <ul style="list-style-type: none"> (1) 立川市第3次観光振興計画の進捗状況について（報告） <ul style="list-style-type: none"> ・立川市内における撮影支援の状況・実績について ・立川市シェアサイクル実証実験の運用状況について ・青梅線エリア女子旅推進事業について ・データ分析システムの導入について 6. その他
配布資料	<ol style="list-style-type: none"> 1. 立川市第3次観光振興計画の戦略と施策マネジメントシート 2. 立川市内における撮影支援の状況・実績 3. 立川市シェアサイクル実証実験の運用状況について 4. 青梅線エリア女子旅推進事業について
出席者	<p>[構成員]</p> <p>副会長 岩下光明、田中光徳、片桐庸行、戸島慶太、廣瀬健太、清水哲夫、青木祥民、木嶋雅史、千葉雄太、相原俊則、大塚正也</p> <p>[オブザーバー]</p> <p>新海きよみ</p> <p>[事務局]</p> <p>太田勇（シティプロモーション推進担当課長）、津崎政人（観光振興係長）、菅野賀陽（観光振興係）、藤戸茉理亜（観光振興係）</p>
欠席者	岩崎太郎
話題提供者	なし
公開及び非公開	公開
傍聴者数	0人
会議結果及び要旨	<ol style="list-style-type: none"> 1. デジタルマップの仕様について意見交換を行った。 2. 今回で協議会委員は任期終了となる。
担当	総合政策部広報課観光振興係 電話 042-529-8562

1. 開会

2. 総合政策部長挨拶

3. 委嘱状伝達

4. 自己紹介

5. 議題

(1) 立川市第3次観光振興計画の進捗状況について（報告）

（副会長）

それでは、次第の5.本日の議題に入りたいと思います。事務局より、資料の確認をお願いします。

（事務局）

資料の確認をさせていただきます。お手元の資料をご確認ください。

先週郵送した配布資料として、「本日の次第」、「資料1 立川市第3次観光振興計画の戦略と施策マネジメントシート」、「資料2 立川市内における撮影支援の状況・実績」、「資料3 立川市シェアサイクル実証実験の運用状況について」、「資料4 青梅線エリア女子旅推進事業について」。本日の配布資料として、資料番号はございませんが、「委員及び事務局名簿」、「前回の議事録」「多摩の発酵ツアーガイド」「『犬も食わねどチャーリーは笑う』のロケ地マップ」をお配りしております。皆様、お手元に資料はお揃いでしょうか。

（副会長）

資料はお揃いのようなので、「(1) 立川市第3次観光振興計画の進捗状況について（報告）」に関して、まずは、「立川市内における撮影支援の状況・実績について」事務局よりご説明をお願いします。

（事務局）

それでは、「立川市第3次観光振興計画の進捗状況について」ご説明いたします。計画全体の進捗状況については、「資料1 立川市第3次観光振興計画の戦略と施策マネジメントシート」をご覧ください。この中から、令和4年度に入り、観光振興係が主に関わっていて事業の動きがあるものの中から、一部資料とともにご説明いたします。

資料2をご覧ください。「立川市内における撮影支援の状況・実績について」ご説明いたします。立川ロケーションサービスの設立前後で実績を書かせていただきまして、令和4年度も、例年、平成30年、平成31年と比べると、実施件数がかなり多く、令和2年と比べても約2倍の撮影実績を上げることができそうです。令和4年度についてはまだ年度途中の実績ですので、もう少し積みあがってくるということになってございます。資料1の6ページ「施策5-3」に記載があるとおり、立川ロケーションサービス事業として、令和3年度は約90万円新たな収入となっており、令和4年度におきましては、約2倍の収入が得られているということでございます。立川観光コンベンション協会の自主財源確保にもつながっております。関係団体の皆様におかれましては、引き続きご協力のほどよろしくお願いいたします。

立川ロケーションサービスが支援をした香取慎吾、岸井ゆきの主演の映画がファーレ立川やサンサンロードが多く登場するなど立川市内がメインロケ地となりました。配給会社や地域メディアと連携したプロモーションを展開し、ロケ地マップの配布や展示を行いました。ファンの方がロケ地巡りを楽しむ姿が多くみられたことから、立川の認知度向上に繋がりました。

事務局からの説明は以上です。

（副会長）

各委員より、ご質問やご意見はありますか。

（G委員）

今、撮影支援の立川ロケーションサービスはこちらから売り込みというか、「立川で撮りませんか」とかされているのですか。

(事務局)

立川ロケーションサービスが立ち上がるまでは、ロケ隊から市役所、観光協会に電話が入るという受け身だけだったんですけども、今、業務提携を結んでいるデイ・ナイト株式会社に台本のレベルから入ったものを、「立川のロケ地だどここが合いそうだ」ってことでマッチングしていくところがありまして、今までより裾野が広がっています。営業をかけているというよりは、来る案件数が格段に増えたということになります。あとは、デイ・ナイト株式会社が稲城市や狛江市、昭島市のロケーションサービスと連携してやっていますので、そちらの方に入った案件でその地域でマッチングしなかった、ということは立川のここだったらいけるだろうということで広域連携の仕組みを構築できているということから案件が増えているという風に認識しております。

(副会長)

5年間の流れを見ても、上向き傾向で、第3次の予定していた部分の効果が歴然と見える施策じゃないのかなと思っています。

(事務局)

本当にデイ・ナイト株式会社の担当の方が一生懸命やっていますので、その分もあって少し増えも伸びもよくなっているのかなと考えています。

(副会長)

立川ロケーションサービスで関わられているのは、マッチングの部分だけで、展示とかそういったものは立川観光コンベンション協会がやったりしているのですか。

(事務局)

その辺りも共にやっています。

(事務局)

展示のこんな形にしようという構成はデイ・ナイト株式会社の担当の方が考えてくれて、それに伴う必要な備品を調達していただくとか、今回、東京都の補助金をこのロケ地マップを作る際に活用したんですけども、その辺りは立川観光コンベンション協会の担当の方が、という風に役割分担しながら実現したという形です。

(副会長)

ロケ地を引っ張ってくるということは、一粒で二度も三度も美味しい観光事業に繋がると思いますが、力の入れどころだなと思いました、それでは次の議題をお願いいたします。

(事務局)

次に、資料3をご覧ください。「立川市シェアサイクル実証実験の運用状況について」ご説明します。マネジメントシートの施策は、「5-2(1)ひとにやさしいまちづくりの推進」、「6-1(2)広域周遊環境の整備」が対象となります。紙とともに画面の方も用意してございます。紙の方は色がなく、画面の方がカラーになっております。どちらかよろしい方をご覧ください。

まず、1ページ目はステーションの設置状況です。8月と比べて、立川駅周辺は公有地を中心に、それ以外は民間事業者の皆様のご協力で増設されました。現在は、40カ所となっております。

続きまして、2ページをご覧ください。こちらは近隣自治体のステーションの状況です。立川市が導入を進めたことで、近隣でも広がりを見せており、同じ Open Street 株式会社と連携協定を締結する自治体が増えております。

次に、3ページをご覧ください。こちらは、立川市内のステーションの平日・休日別利用回数を折れ線グラフで表したものです。利用回数が11月までは右肩上がりでした。どうしても寒い時期になりますと利用状況が落ちますので、12月はその影響を受けています。とはいえ、全体的にみると実証実験開始以降は順調に伸びてきたと認識しています。

次に、4ページをご覧ください。こちらは、各月の利用回数とどのような使われ方をしているかエリア視点で3パターンに分けて棒グラフにしたものです。前の画面をご覧ください。黄色の out というのが、立川市内のステーションから他市のステーションに出ていったもの、緑色の in というのが、他市のステーションから立川市内のステーションに入ってきたもの。一番下の own が、立川市内のステーションで借りられて、立川市内のステーションで返され、市内だけで完結したものといた内

訳になっています。6月頃から11月に向けて倍以上に own が増えてきております。own が増えるということは、事業者によると、市内のステーションが充実してくると、市内利用・回流が増える傾向にあるそうです。

次に9ページをご覧ください。前回の協議会で OD データ、出発地・目的地どこが多いのかのお話がありましたので、利用経路別の利用回数 TOP20 をお示しします。出発地、到着地含めても立川駅周辺のステーションの利用が多いことが分かります。立川駅周辺以外では、スーパーや駐輪場など先行してステーションが整備されていた国立方面からの利用が多いことが読み取れます。

最後に10ページをご覧ください。こちらは、今年度の取組と今後の予定についてまとめております。来年度については、引き続きステーションの拡大を図っていきます。具体的には、公共施設では、公園等への設置を検討しております。2点目として、より広域的な連携事業の検討ということで、立川市と福生市の2市の連携だったものを、令和5年度は拡大して実施していく予定です。3点目として、シェアサイクル利用データや別途実施する予定のアンケートなどにより移動状況の分析をしていきます。

5ページから8ページは、ヒートマップや曜日別、時間外別の内訳となりますが後ほどご覧ください。

事務局からの説明は以上です。

(副会長)

各委員より、ご質問やご意見はありますか。

(C委員)

シェアサイクルの部分で、何か利用されるお客様の利用する期間などが分かってきたと思うんですけども、その中でお客様の声・要望・トラブルは件数的にあったのですか。

(事務局)

交通対策課がメインになるので、細かいことは聞いていないのですが、トラブルについては聞いていないので、問題はない状況です。要望については、ちょうどこれからアンケートを取る予定でして、その中で見えてくる部分が出てくるところで、回答がまた入ってきましたら、次の協議会では共有していきたいと思っております。

(C委員)

車両的なトラブルも特にはないですか。ギアとかチェーンとか。

(事務局)

車両も特段クレームにはつながっていない状況です。ただ一時期、立川に自転車がないという、いつ見ても駅周辺のポートが空っぽという事象があって、クレームに繋がる前に我々の方から事業者に指摘をしまして、自転車を投下する動きを取ってもらいました。今は比較的自転車が安定して駅周辺にもあるような状態になっております。そこはどうしても、再配置のコストと人の利用の中で再配置を進めるバランスをとって、立川市の地域特性、中でどれくらい再配置を行い、強制的に自転車を動かす必要が出てくるかっていうところを今、事業者が分析しながら、取り組んでいるところです。

(G委員)

4月からヘルメットの努力義務化などあると思うんですけど、シェアサイクルはどうしていくのですか。

(事務局)

議会でも質問が出たところなのですけれども、明確にどうするっていうところまではまだ対策が決まってないとは伺っています。どこかの場所に置いておいて、取りに行かせるということは難しいだろう。やるのであれば、自転車にアタッチメントをくっつけて、そこにヘルメットをつけて、予約したときに解除される仕組みができるといいなということでした。恐らく、今後どうするか検討せざるを得ないだろうという状況だと思います。

(事務局)

福生市との連携事業のアンケートの中で、スマホホルダーをつけてほしいというようなご要望があった記憶がございます。なぜかというと、シェア電動キックボードには確かについているんですよね。そこは、事業者の方にも聞いたところ、まだどうするかっていうのも検討するとかもないので、

今後、ヘルメットも含めてどうしていくのかというところが出てくると思います。

(G 委員)

ヘルメットに合わせてなんですけれども、事故っていうのも増えていないのですか。

(事務局)

事故は報告受けていません。

(G 委員)

シェア電動キックボードの話が少し出ましたけれども、シェア電動キックボードとシェアサイクルのデータを重ね合わせて見ようとしていくなどはあるのですか。

(事務局)

今、商工会議所の中に MaaS 協議会をもっていて、協議会に立川市交通対策課長がオブザーバーのような形で参加をされていて、事業者も参加していますので、データの共有はできているのだろうなと思っているのですが、そこをポイントポイントでぶつけていくっていう作業まではできていないと思います。今後になると思います。電動キックボードについては、南口の方の利用が多いような記憶がございます。北口より南の方が乗りやすいのがあるかもしれないです。まだ細かくはわかっていません。

(G 委員)

シェア電動キックボードの絡みになるのですが、シェアサイクルは 24 時間でヒートマップが出ていると思うんですけど、飲酒運転対策とかどうしているのですか。

(事務局)

シェア電動キックボードは夜使えなくなる、機械的に制限をかけておりますので、GPS 機能で入れない場所に入ろうとすると、止まってしまうことや時間も決めていとは聞いております。シェアサイクルについてはそのようなシステムは聞いていない。恐らく、利用者のモラルに、という話になるのかと思います。

(事務局)

データを見ていただくと、曜日別時間帯で見ることができる。1 時って誰が使っているんだろうとなりますね。

(B 委員)

シェア電動キックボード使えないから使っているんじゃないでしょうか。

(事務局)

終電逃した方が乗っているのか。飲食店の閉店後に乗る方もいらっしゃるかもしれない。実際にアンケートとらないと分からない。

立川市の特性においては、通勤時間帯の朝に増えているわけでもない。午後の時間帯、特に夕方が一番ボリュームゾーンなので、買い物前とかレジャー観光、ビジネス利用っていうところが一定数多いのではないのかと今、無料でいただいているデータの中では見えてきている状況でございます。

(事務局)

飲酒運転については、なかなか、自転車の利用時間帯を規制するとそれはそれで、何もなくて使っている方が逆に機会損失になるので、必要性があれば、例えば、ポップアップで注意喚起をするっていうようなところは要請していく、そういうことくらいしかできないかと思っています。

(F 委員)

インバウンドのお客様が結構増えてきたと思うんですけども、現状は市民の方の生活利用がほとんどという感じだと思うんですけども、インバウンドの方は観光目的で乗車される場合、英語対応していますか。

(事務局)

英語対応しています。操作するパネルも英語対応されています。

(G 委員)

質問なんですけれども、資料の 9 ページに貸し出しステーションと返却ステーションとありますけれども、これは曜日ごとクロス集計みたいなことはできるのでしょうか。

(事務局)

元データがあればできますが、利用状況の曜日ごとにはないです。

(H 委員)

そういう分析をすることによって、たぶんこれ生活利用ってところがメインになっていると思うんですけど、これは観光振興協議会なので、観光目的に使ってもらう上では、そういった分析も必要なのかなと思いますし、例えば、昭和記念公園のまわりとかそういったところの観光資源として計画の中でうたっているような場所をステーション設置進めていくべきじゃないかなと思ったので、意見として言わせていただきました。

(事務局)

無料の定期的な月報のなかでそういったデータがないので、そういったデータを取る必要があるといった仮説を立てて、それを事業者の方にデータをくださいといった調整をしていくという方になります。実証実験が3年間ですので、ステーションの数がある程度増えていかないと、有料データを取るのにコストがかかってきます。そのバランスを見て1年置いてみて次年度、違う視点で有料データをくださいという調整をしていくことになりますので、今、皆さんのご意見をいただいてデータを取ってみる形を進めていけたらと思っております。

(G 委員)

その自転車はどういったルートを通ったとか、借りている時間が10分なのか2時間なのかそういったデータは取れているのですか。

(事務局)

自転車ごと個体のデータはございません。

(E 委員)

恐らくそうだろうという主旨でお話すると、データは取っていると思います。ただし、今出ているものは、無料で報告いただける情報だけです。追加のコストで集計をお願いすることはできますが、個々のデータがこちらに来るわけではなく、Open Street 株式会社に依頼して集計をしていただくことになると思います。ただ、こちらは国内の会社ですのでいいのですが、シェア電動キックボードの方はデータが一回アメリカに行くそうで、アメリカから引き出さないといけない。個人属性のデータも入手が難しいらしく、思ったデータが出てこないと考えた方がいいかもしれません。ただ、シェア電動キックボードの事業者の方が必死にやっているの、それなりにデータが出る感触はあるとは感じています。クロス集計も、どのくらいの費用がプラスになるか分からないですけど、できなくはないでしょう。今後そういうオーダーをする意味があるのか、一回は感触として無料でチェックさせてほしいといった主旨でやってみるのがいいかと思えます。

(副会長)

必要と思われるデータを精査してください。

(事務局)

有料のものも1年に1回程度お願いしますと市からもお願いしていて、タイミングの問題かとも思います。民間の施設なども打診をしていて、どうしても大店立地法などの駐輪場の設置の設置台数の届け出を変更するなど、法規制のところをクリアしてかないといけない兼ね合いがございます。緑地帯に置くとなると、緑地比率変更の届け出が必要になってしまうなど、民間事業者の負担をかけてまで置いていただくことになってしまうので、そこをどうクリアしていくかがひとつの障壁となっているところでございます。

(E 委員)

市民利用が中心ですね。資料4ページでは2022年11月に月間で最高値の4,000弱くらい。1日平均すると130とかですね。設置しているポートが40なので、1ポート平均3回しか使われていないということですね。ということなので、もうちょっと増やしていかないと、なかなかデータが集まりませんし、実証実験がなかなかうまくいかなかったのか、設置・投資するコストが回収できません。現状では収入は大きく期待していないと思うんですけど、このまま利用が少ないとなくなってしまう。シェア電動キックボードの方は、事業者によると南大沢の2倍の利用があるそうです。南大沢は1日1台あたり1回とか2回も使われていないような感じだったのですが、立川の方が2回

か3回といったところです。それでもビジターだけじゃなくて、市民の方も使っていただかないとちょっと厳しいのかな、と。ビジターの方も、インバウンドの方たちの話がさきほどありましたけれども、シェアサイクルのアプリを入れていただいたとして、東南アジアの方って歩かないので、自転車もたぶん乗らないのですよ。むしろ、欧米とかオーストラリアとか台湾とかでしょうか。台湾は自転車が盛んなので、そういうところを狙うのもいいかなとは思いますがね。

(事務局)

今日、2月分のデータが届きまして、2月月報の最新データです。まさに今、40ステーションでラック数が270で、公共施設にもまだ進んでいないので、公共施設にもまだ伸び代がある。あとは駅周辺の敷地にどう置くか、民間施設、昭和記念公園など。設置していくと増えていくのかな、増やしていかないといけないというのは我々も同じ認識であります。

(G委員)

リピーターの割合とかってどうですか。同じ人しか使ったことないんじゃないでしょうか。

(E委員)

一部のヘビーユーザーが回数伸ばしていただいている。そういう感じだと思います。

(事務局)

利用者で、本エリア初回利用者数が出ています。2月だと、1,450人のうち、初めて利用した人はどのくらいか、それ以外の方はリピーターといいますか。利用したことがあるというデータがありません。

(副会長)

観光に使われるようなステーションの作り方とか、そういった部分も行政施設にも持ってくるとか進めていただければと思います。

では次の議題をお願いいたします。

(事務局)

資料4「青梅線女子旅推進事業について」をご覧ください。資料1マネジメントシートでは、8ページ施策6ー2「広域的な観光プログラムを開発する」に関連するものです。

今年度、平成30年度の「ことりっぷ」作成から取り組んでまいりました「青梅線エリア女子旅推進事業」が最終事業を終えることができました。令和2年度・令和3年度は、コロナ禍で思うように事業展開ができず、今年度になり、実施できていなかった「フォトコンテスト」、「謎解きゲーム」や新規企画の「発酵ツーリズム」を実施しました。

発酵ツーリズムの企画については、GREEN SPRINGSで行った展覧会に、1か月で約6,800人の来場者にお越しいただきました。本日お配りしたタブロイド紙「多摩の発酵ツアーガイド」は会場で配布したのものになります。モニターツアーには、8名定員のところ50名近くの方の応募があり、沖縄から参加された方もいらっしゃいました。

(事務局)

ツアー参加者9名のところは8名定員のところ、ご夫婦の参加があったため、9名参加となっております。

(事務局)

発酵ツーリズムの取組は、今後、民間事業者が何かしらの形で引き続き実施する予定となっております。

事務局からの説明は以上です。

(副会長)

各委員より、ご質問やご意見はありますか。GREEN SPRINGSの展示行かれた方やツアー参加されたという方いらっしゃいますか。

(G委員)

とても良い切り口の展示というか、ツアーも単品じゃなくて合わせて楽しめるコースが組みやすい展示だったなあとは思っております。一点だけ、これもできたら良かったなと思ったのが、紹介をされていた発酵食品47品種、立川で紹介されていたのですが、そこから立川の飲食店に足が向かってつながるところまでなかったのが、少し勿体ないなあと思いました。ワインや日本酒などもそ

うですし、東京の南の島の食材とか扱っていたりするところもあったので、知ってもらえる機会だなと思います。新しい人が訪れたのではないかなと思います。

(副会長)

飲食店とのセットとかそっちのつながりがあると裾野が広がったかなと思いますね。

横田基地のマルシェに出店したときに、非常に地元産のものとか地酒がとても売れたような経緯がありました。

(事務局)

横田基地に関しまして、補足説明ですけれども、10月にファーマーズマーケットを横田基地で開催して、大変好評だったので、3月にもう一回やるので、観光部門も来てくれないかというお声掛けがあって、我々もPRブースで出ているという形になります。

それでは次の議題をお願いいたします。

(事務局)

資料1 マネジメントシート・7ページをご覧ください。施策5-3(2)「データに基づくマネジメント体制の構築」に記載があるとおり、令和5年度より、位置情報等分析システムのヤフーデータソリューション「DS.INSIGHT」、宿泊データ等分析システムの観光予報プラットフォームの利用を開始します。前回までの議論を踏まえて、まずは現状を知ることから始めようということで予算がつきました。

定点的にデータを積み重ねていくことで、その地域の時間的、季節的変動を読み取ることができます。そのデータにイベント的な要素や新たなにぎわいを生み出す施設の出現とともに、年齢や居住地、検索データなどを掛け合わせることで、にぎわいの量と質の変化を読み取ることができるのではないかと考えております。そのデータをもとに、立川市で行われているイベントや施設に訪れる方の傾向などが読み取ることができれば、より多くのにぎわいづくりのためのプロモーションの手法や範囲について改善策を検討することができるのではないかと考えております。

また、東京都が令和4年12月より「東京観光データカタログ」というウェブサイトを開設しました。これまでの観光統計をわかりやすく伝えるようにしたとともに、新たに「モバイルデータを活用した訪都旅行者動態調査」を行いデータ提供し始めています。

こちらは、訪日外国人旅行者及び日本国内居住者双方のデータを拡大処理しているNTTドコモのモバイル空間統計を使用しており、市町村単位の旅行者数(日帰り/宿泊)の年間人数(1月~12月)を把握することができます。

I委員、ここで補足していただけることがございましたら、お願いいたします。

(I委員)

ご説明いただいた通り、昨年12月に観光部の方で実施している統計調査のデータをグラフ等で分かりやすく視覚化して提供するというのをさせていただいております。ダッシュボード化することによって、よりデータの活用をして、市とか観光協会でも分析とかできるような形で提供させていただいておりますので、まずは見ていただいて、活用いただければと思っております。

(事務局)

データ分析という中で、関連するものとして4ページをご覧ください。施策4-1(1)に記載があるように、来年度、立川観光コンベンション協会のホームページ内に、地図で案内する機能としてデジタルマップ機能を実装します。一目で分かる画像ピン、瞬時に切り替わるマップレイヤー、スタンプラリーやクーポンマップなど回遊施策機能を追加できる拡張性が特徴です。

また、7か国語に対応しておりインバウンド対策の強化につながるほか、ユーザーインサイト機能で利用者がどのスポットに注目しているかを地図から分析することで、新たなマーケティング施策に簡単に活用できます。他地域の事例を画面でご紹介します。

(事務局)

都内自治体のデジタルマップになっております。「観光」「食べる」「イベント」こういったカテゴリは地域で自由に設定することができる状況です。「食べる」は押すとスポットが出てきて、行きたいところをクリックしていただくと、その説明が出てくる。更にここに行こうと決めたら、グーグルマップに切り替わる。そして案内をしてくれる機能です。スマホのブラウザに対応しておりますので、

二次元コードを読み取っていただくと、その使っている方の国の言語で出てくるという形になります。多言語対応もできるという状況でございます。リスト形式で自分のいるところから近いところを表示することもスマホ上ではできません。「イベント」を選ぶと、そのときにやっているイベントを表示することによって、イベントが多いエリアにおいては、こういうイベントやっているんだと認知していただく機会創出にもつながるのではないかなという風に思っております。今回、考えていくのがウェブの情報を更新してデジタルマップ上の情報と連動させるウェブスクレイピングという機能を実装しようと考えておまして、立川観光コンベンション協会の作業を楽にするため、ホームページを更新すれば、「食べる」を連動させて、切り替わる、更新されるというような処理をしていきたいという風に調整をしております。

こちらの自治体のデジタルマップを見ていただきますと、公園に置いた既存の紙マップにプロットしてご案内することができる機能もございます。たとえば、昭和記念公園の園内マップをデジタル化するタイミングで立川観光コンベンション協会のデジタルマップと連動させて「地域に戻る」みたいな形で展開できるように将来もしなるとすると、立川に訪れた方が昭和記念公園に行く予定だったけれども、他のところも認知していただくようなリレーションをかけることができると思っております。立川市においては、商業施設が一定数多いエリアですので、商業施設内に「食べる」飲食店がいっぱい入っていると、どの商業施設内のお店なのか分からないということが起きます。リストマーカーという機能で、商業施設を選んでその中に細分化させてお店を表示するという機能もついているので、商業施設の多いエリアはそれをまとめる表示をすることができます。

(事務局)

データ分析の中で令和5年度にやっついこうという風に考えております。事務局からの説明は以上です。

(副会長)

ベースのデータはいろいろバラバラにあるものが一つに見られるっていうのは非常にいいと思います。

(H 委員)

掲載するお店の基準とか製作する側・事業者の方で決めて載せる形なのですか。

(事務局)

デジタルマップに掲載するお店については、基本的に「食べる」とか「買い物をする」については、立川観光コンベンション協会の会員がベースになっております。更に、『たちかわ輝く個店』という表彰制度がございまして、飲食店、物販等、非常に個店、個人事業者が多いので、そこを掲載している状況でございます。

観光スポット、「見る」という分野については、立川市内の一般的な観光スポットを掲載しているので、会員かどうかの基準はございません。

(G 委員)

デジタルマップに載せるとグーグルの検索に引っかかったりするんですか。マップに来ないと、マップの中を見られないのかどうか。

(事務局)

確認します。

【後日回答】

デジタルマップに掲載した内容をグーグル検索に表示することはできず、デジタルマップに掲載したからといってグーグル検索に引っかかるということはありません。

また、デジタルマップに掲載された内容がグーグルマップ側に反映されるという様なこともありません。

(B 委員)

自分が何度もアクセスをして、利用回数が多いお店が自分のマイリストになったりしないのですか。

(事務局)
確認します。

【後日回答】

よく行く店舗をマイリストなどで登録する機能をつけることは追加のオプションで対応可能とのことでした。マイリストを使用する場合には、認証機能を追加する必要があります。

(B 委員)

よく行くお店が立川市内にあって、自分だけの周遊ルートができると、予定を立てるなど、今日はこういう風に動こうかな、今日はこっちの道行ってみようかな、逆にいろいろ見る機会になるのではないかなと思ったのがひとつ、いつもこの道、このお店で食べちゃっているから、今日はこっちの道に行ってみようかな。仲間と一緒にご飯食べに行くときとかも。そのマイリストみたいなものを見られると、ここにあるよとか行けたりするのかなと思いました。先ほど、フロアマップみたいなものも見られたと思うんですけど、ビルの建物をクリックして、件数が多いと右側にリストが出て、あれこそフロアマップみたいになっていて、例えば商業施設内の店舗の名前が出て、平面図に移って、ここにお店があると。いろいろなお店を見られる観点もあれば、最初から行きたいお店のあるフロアに上がって入って行けばここにお店があると見られる方が利用者としても便利だと思います。

(事務局)

公園との連携を考えると不可能ではなさそうな感じはしますね。

(B 委員)

例えば、商業施設をクリックするとフロアマップも全部出てきて、そのフロアマップ内もクリックできるようにするとか、作り方次第だとは思いますが。

(事務局)

商業施設の階層ごとデジタルマップになるサービスがあるらしいです。導入をしているところもあると聞きました。立川観光コンベンション協会の中でやり取りをして、予算が足りないみたいなこともあったのですが、これを機会に、市内の商業施設の皆様も、紙に刷ったフロアマップを少し減らしながら、デジタル化していくときに、デジタルマップに連動していくという話にもつながっていけば、おもしろいと思いました。

(F 委員)

デジタルマップを今日初めて知ったのですが、もしデジタルマップができあがって、立川観光コンベンション協会のページに載る場合、そのマップへの流入経路は、立川観光コンベンション協会のページからしか見られないのですか。せっかく作ってできたのですから、その地図自体を広げていけたらいいのかなと思います。

(事務局)

WEBにします。地図のリンクを二次元コード化して、街中の交通案内版に二次元コードを貼るとかガイドブック立川散策に掲載するなど、二次元コードベースで、タッチポイントを増やしていくことができるかと思っていて、そこはまさに展開していきたいと思っている。ここに載せたらいいのではないかというアイデアがありましたら、教えていただければと思います。

(E 委員)

そのデジタルマップを使ったことがないので、今、初めて他の事例を見たのですが、紙で配る地図の代替ということかと思えます。各施設がグーグルマイビジネスでデータの入力をするのでグーグルマップ内で検索対象になるのですが、みんながこれをやるとたくさんの検索対象地ができてしまって、市として推したいスポットを効果的に観光マップ上で表現できないかもしれません。紙ベースの地図の機能をデジタル化したい、というニーズだと思うので、目的地への経路検索はグーグルを使ってもらい、目的地を認知してもらうのはそのデジタルマップという機能分担をしていくという理解でよろしいと思うのですよね。まずはタッチポイント、いろんな経路で二次元コードなどアクセスの認知を得ていかなければいけないという話と、デジタルマップをいろんな地域が使えたと、類似のサービスがあっても、「これは使いやすい」ということでみんなが使うようになった場合、全国のどこどこで使えます、みたいな相乗効果が入ってくるといいですね。そのときに、

デジタルマップを使った取り組みの中で、立川の取り組みがすごくいいということになると、人気上位になっていくみたいな感じになって、そういう意味でもより使ってくれるかもしれない。要はデジタルマップを使っている人たちの仲間を増やしていくことが大事かなと感じます。メジャーなところで使えるようになると、デジタルマップを最初に見に行き、ここから自分が興味ある地域を探して、例えば、立川の辺りに来たとなったときに、これを見て何かないかなと探して、グーグルマップはもう少しフォーカスが絞れた、訪れるべきところのPRができていて、そのような使い方なのかなと感じます。

(事務局)

スタンプラリー機能、立川観光コンベンション協会で行っている「とある」のスタンプラリーとか、「おみやげ品発見スタンプラリー」も、デジタルマップのプラットフォームに移すことによって、観光スポットにも気付いていただく、流入者数を増やすといったこともできるだろうと思います。地域の方々がこのプラットフォームを使ってなにかやってみたいというような連携もできるのではないかなというような先を見てやっていきたいと考えております。

(副会長)

そこに出ているお店とかコンテンツのフィルター分けが非常に大事ななと思っていて、先ほどの質問にあった会員を軒並み載せるとなると、行ってがっかりは出ないとは思いますが、載せる情報の精度を上げるということは若干大事になってくると思っていて、その辺りは立川観光コンベンション協会にいいコンテンツの入ったものに仕上げていただければと思います。

(オブザーバー)

コンテンツの質を担保していくというのは非常に大事だと思うのですが、それとアクセスのしやすさとか認知度を向上させるということをどう両立していくのかという非常にバランス的には鬼門だなと思いながらお話を聞いておりました。

(D 委員)

デジタルマップのマップ部分のベースはグーグルマップやヤフーマップなどが使われているのですか。

(事務局)

グーグルマップかマップタイラーの2種類どちらか選ぶことができます。見た目はあまり、変わらない形で、事業者的にはマップタイラーの方がコスト的にお勧めされているので、マップタイラーを使っているところが多いです。先ほど説明した、ここに行こうと案内を開始すると、グーグルに繋がるんですね。ある程度、地域にお勧めするスポットを見ていただいて、より口コミを確認したい方はグーグルマップで確認されるようになることを想定しております。

(D 委員)

私も非常にいいなと思っていて、公園のマップを大量に刷って、それがA3判、A4判とあって、無料なものですから、皆さん来たら必ず持っていくんですね。結構捨てられているんですよ。お金かけて刷っているのに、捨てられてゴミになって、ごみの処理代がかかって、おかしな状況になっているので、こういうもの(デジタルマップ)に変えていきたいなとは思っているのですが、公園内というものがクローズドの世界なものですから、公共マップにきちんとデータに載っていない場合が多いんですね。サイクリングコースがあったり、一般園路があったりとか、入れない道があったりする中で、たとえばグーグル案内されたときに、サイクリングコースを歩いちゃったりとか、へんなところ誘導されちゃったりというところがあると、その修正にお金がかかったりっていうのもどうなのかなと思います。それがクリアできると非常にいいかなと思います。

(B 委員)

グーグルマップとデジタルマップの棲み分けについて、デジタルマップに入って行ったとき、グーグルにお店の詳細が飛んだりとか、道案内するときに戻ったりとかそういうことができるのかなと思ったのですが、開けていただいたらURLがついていて、お店の詳細がついていますし、地図の方は「案内」を押せばグーグルに飛ぶということだったので、デジタルマップから入って行って、情報を得ることができるんですね。

(副会長)

グーグルマップとどこが違うのかなと疑問があつて、自分がどこかのまちに行ったときに、「ラーメン屋 美味しい」で検索をするのが、グーグルマップであつて、直接行かないなという気がしたりもしたんですけども、ただ、先ほどいろんな機能の中でスタンプラリーができるとか、タイムリーにイベント情報が掲載できるところとかが、デジタルマップの強みじゃないかなと思ひまして、運用上棲み分けて情報をピックアップしていった方がいいのかなと気がしておりました。

(G 委員)

ここに載らないお店とかって紹介しにくいな、自分のお店が載っていないから、というところが立川観光コンベンション協会と輝く個店だけだとよくあるのではないかなと。飲食店だと1,000個くらいリストがあつて、そこが一緒にやろうと思ってくれる見せ方とか伝え方をしないと、一緒に観光を盛り上げるっていう風にはできるのかなというところを感じました。スタンプラリーとか参加したいお店などが多ければ、載せられないんだけど、と言われることもある。

(E 委員)

コロナのときに認証制度があつたじゃないですか。ああいうものと連動できるか。登録できる数でコストが変わってくる。1,000とかのオーダーだとすごい高くなって無理なので、何百とかの登録数になると、飲食店だけでもセクションをかけないといけない。となつたときに、こういう制度をしっかりやっているお店を優先する、みたいなコロナの時のやり方はやりやすかつたかもしれないかな、と。ある種の基準みたいなもので認定されたら負担金を払う、という風にするなど、金銭負担登録者のような資格をうまく制度化することが必要かなあと聞いていて思ひました。

(H 委員)

先ほど、神社のページ開いたとき、トイレのアイコンとかが出ていたと思うんですけども、そういった見てパッとわかるアイコン、駐車場があるとか、トイレがあるとか、アイコンで表示する機能はオプションであるんですか。

(事務局)

アイコンの作り方など自由度が高い。設定でトイレマークを入れようということもできます。作業工数とか、全部の施設をマネジメントしていくかのバランスになってくるかと思う。拡張性高く入れていくとそういうこともできるので、どこまで丁寧にやるかということの話になっていくのかと思ひます。

(A 委員)

今まで、商工会議所、観光協会のときにずっと携わっていたのですが、ホームページを改修するといった中で、飲食情報だとかは肝になるので、どういう風にして載せればいいのかといったところで、本当に今のような議論があつた。登録事業者、輝く個店となると思うのですが、さっきからもお話を聞くうえで、立川ってこういうお店があるよねってあるんですよ。なんでここは載っていないんだろうか、なら違うところで調べて行こうかというのがあつて、なにかそういった基準をなにかあつたときのために、こういうことできちんと載せていますといった何かがあると、さらにそういった形で内容の方も充実してくるのかなあと思ひました。その場所へ移動をし、探してもないと次のところへ行こう、別のお店へ行こうとなってしまうので、そういったところを一工夫二工夫できないかなあと思ひました。

(C 委員)

デジタルマップ自体はアプリではないですよ。URL等で検索してから入って行くものですよ。

(事務局)

ブラウザです。

(C 委員)

駅でお客様に立川をご案内していくのにこういうものがありますよって検索してもらって入って行くという風になる。ただ、二次元コードっていうのは、そもそも一店舗の中に入っていく二次元コードなんですか。

(事務局)

デジタルマップの最初のところをご用意する形になります。恐らく店舗ごとにも二次元コードが違うので、URLを二次元コード化すれば、お店ごとにもそれを作ることができるという形になります。

す。令和5年度、立川散策をリニューアルする予定なので、そこにスポット店舗を紹介するページと二次元コードを組み込んでいきたいと思います。更に令和6年度には、予算が通れば、日本語版のガイドマップと英語版のガイドマップを紙で一定数作成して、紙の方がコミュニケーション取りやすい機会もございますので、そこでお渡しして、デジタルマップにもつなげていくことができればいいなと思っております。

(G 委員)

リアルタイム性がわりと大事だと思うんですけど、イベント情報とかがって時間とかで出す出さないを決められるんですか。例えば、10時から始まるイベントを朝8時から検索でひっかかっちゃうと、行ったらやってないとなるじゃないですか。やっている時間だけ表示するといったことはできないんですか。パッと情報出たときに書いてあればいいとは思いますが、念のため、確認いたします。

(事務局)

確認します。難しいと思う。そのタブを見て、時間帯見てもらう可能性が高いと思いますが、念のため、確認いたします。

【後日回答】

現状、導入予定の機能で対応可能です。デジタルマップの修正画面から手動で入れる必要があるが、日付指定、時間指定が可能とのこと。

(事務局)

E 委員から、観光予報プラットフォーム、東京都のデータカタログなど、そういった総合的に見て、アドバイスですとか、新しい情報がなにかございますか。

(E 委員)

観光予報プラットフォームにつきましては、少しずつ精度を上げているのが実態かなあとと思います。観光予報プラットフォーム自体、ベースが観光庁のやっている宿泊旅行統計になっていまして、基本的には東京都全体の値を自治体別に按分しているという形でやっているようです。立川市だとそれなりに宿泊数があるので、それなりの精度とは思ってはいますが、日別にすると少しおかしなところが出てくるところはありますが、月でまとめると大丈夫かなというくらいのイメージです。予報ということなので、先6か月間の日別の宿泊者数も予測値として出しているのですが、コロナ期間中で学習データがうまく機能していなかったのではないかな、と。インバウンドが2年間ゼロだったので、今後、しばらく経たないと安定した予測値が出せないのかなと、推計の仕組みを考えると想像ができます。海外のOTB、海外の旅行代理店の予約情報がまだ入っていないので、日本人の予測値は制度がそれなりにいいのですが、外国人の予測値はそういう情報が入ってこない、外国人が予約をしているメイン経路が含まれていないので、精度的には厳しいかなと思っております。観光予報プラットフォームは、過去を見る分には使えると思うのですが、将来を見る分については、もうすこし温かい目で見守っていただけると良いかなと感じております。

データカタログについては、元となっている東京都の統計自体が、東京都全体なので、現状だと立川市で単独で表示できないと思うんですよね。パラメータ調査みたいなものは、例えば、立川市の部分だけで集計していくのはサンプル数的にも厳しいそうです。外国人の方も多分、立川市に何%訪れるとかはわかるんですけど、それ以上はわからない。こちらのデータカタログについては、東京都が公式にやっている統計だけだとちょっと厳しいのかなと感じていて。我々のような研究者がやるような解析を含めて、違うところからもデータを吸い上げてもいいと思います。いずれにしても、自治体の方がこういうものを使って施策を検討するには、まだ役不足かなあと感じています。とりあえずは、この存在を知らしめることに力を入れるらしいので、小中学校の授業で使えないかどうか、そういうところを次にやるそうです。

(事務局)

立川市におきましては、データを持っているものが少なかったんで、それを立ち上げていくことで一生懸命、何か使えないかなと探してきている中で、E 委員にも前にアドバイスいただいたのですが、ヤフーのデータソリューションも推計値なのであくまでも実数ではないところでは、数がどこまで精密かどうか参考にできないと認識したうえでパーセンテージですとか日ごと月ごと年ごとの比

較をして地域の状況を診断していく。東京都が出したモバイル空間統計のデータは、数でいうと位置情報、基地局データで、ヤフーや KDDI と比べると精度が高いと言われてしていると認識していき、そういった意味では年間、旅行者という定義（首都圏 1 都 3 県は居住者片道移動距離 40km 以上または滞在時間 4 時間以上）付けをして、出していただいていることを参考に年度ごとに比較していくということも考えられるのではないかと。

(E 委員)

必ずしも訪れているのが観光目的ではないこともある。むしろ観光目的でない方が多いと思う。集計単位が月ごとだったと思います。

(事務局)

市町村には月ごと貰っているんですけど、対外的には月ごと出せない状況だと聞いています。

(E 委員)

こういうのをマーケティングに使えっていうと、適した時間と空間の解像度がないのですよね。観測できる訪問人口が全て観光目的ではないのと、月別とか年間値とかそういう値しかつかえないというと、少し厳しいかな、と。インバウンドについては、これは数も少ないので、エリアに落としていく場合に年間値しか使えないという状況かと思われま。

(事務局)

来年度以降、ツールを使いながら、試行錯誤続けていきたいと思っています。

(E 委員)

料金が高いので、東京都の予算でもあのぐらいを購入するのが精いっぱいかもしれない。

(副会長)

個別に資料はございませんが、資料 1 マネジメントシートの中で MICE 事業について補足説明いたします

(事務局)

5 ページをご覧ください。立川観光コンベンション協会が中心となって進めている MICE 事業についてご報告します。

記載にあるとおり、8 月に開催された「第 50 回全国消防救助技術大会」など、既に開催が決まっている案件を生かし、ブース出店やグルメマップ配布などを通して経済波及効果の最大化を目指しました。直近では、3 月 6 日から 10 日までの間、国立極地研究所と北極環境研究コンソーシアムが主催して国立極地研究所におきまして第 7 回国際北極研究シンポジウム (ICER) が開催され、こちらは、現地とオンライン参加も含めたハイブリッドで開催され、全体の参加者数としては 300 人程度、このうち海外から参加されるのは 115 人程度だったと伺っております。本開催にあたりましては、立川観光コンベンション協会が運営面で支援を行いました。立川市の知りたいことをインフォメーションセンターのような形で作って、こういうところへ行きたい・買いたいといったことを少しお手伝いさせていただいたところでございます。

また、令和 4 年 10 月、多摩地域最大規模のコンベンション施設として、八王子市内に「東京たま未来メッセ」がオープンしました。JR 八王子駅、京王線京王八王子駅の両駅からのアクセスも良く、宿泊施設も多いことなどから、今後、当該施設の認知が進んでまいりますと、東京たま未来メッセを開催地として MICE が増えてくる可能性が見込まれます。いわゆる中規模と呼ばれる施設になりますので、運営費もそれほどかからない、なおかつ大規模のものでなく、中小規模のものを呼べるのではないかとといったような施設がありますので、本市といたしましては、そういった状況を注視するとともに、改めまして、MICE の「M」ミーティング、「I」インセンティブ、「C」コンベンション、「E」エキシビション、のそれぞれの分野に対し、どのような戦略で臨んでいくのか、立川観光コンベンション協会や立川商工会議所など、本市の MICE 関連団体の議論を見守ってまいりたいと考えております。

6 ページをご覧ください。施策 5-1 (1)「観光ガイド・ボランティアの育成と確保」についてご報告します。

おもてなしボランティア講座につきましては、東京 2020 オリンピックパラリンピック競技大会の開催に伴い外国人観光客へのおもてなしの一環として、外国語によるまちの案内ができる市民を養

成することを目的に事業を開始したものです。令和4年度は、事業者に委託して実施し、座学を半日、実地を1日行い、外国語を用いたまちの案内を体験していただきました。受講した皆さんからは好評をいただいておりますが、新型コロナウイルス感染症の影響の前から、立川観光コンベンション協会の取り組みの中でも、外国からの来訪者へのまちのご案内をする機会が確保できておらず、ボランティアを育成する機会とまちを案内する機会にミスマッチが生じていることから、令和5年度につきましては、外国人観光客へのおもてなしのあり方について再構築を行うこととし、本事業の実施は見送ることとしました。

令和4年度に、市と中央大学との連携協定に基づき、本講座に英語圏の短期留学生にご参加いただきました。今後は、この連携を生かし、外国語によるまちの案内ができる人材を育成する機会とまちを実際に案内する機会にミスマッチが生じないように、立川観光コンベンション協会が所管する「たちかわまちの案内人」制度や民間事業者が実施している事業なども含めて、体制の再構築につきまして検討してまいりたいと考えております。発展的な事業見直しにできればいいなと思っております。

(副会長)

時間がありますので、全体を通して何かございますか。

(G委員)

今日の会議の中で全然触れられなかったと思うんですけど、資料1の施策4-3(3)の「市民全体の取り組み強化」の中に第3次観光振興計画の主な取組内容の中に市民参加型のメディアづくりとありますが、令和4年度の内容はコトリンクだけで、他の市民のメディアって需要があると思うんですけども、連携とか考えられているのでしょうか。

(事務局)

全庁として市民の方と連携しながら、情報発信をしていきたいと思いますという、他市ではいくつか例はあつたりします。そこは認識しているのですが、なかなか市の方では追い付いていないのが現状です。ようやくコトリンク3階の情報発信センターの方で4月以降、「ボールメンバー」という言い方をしているんですけども、メンバー登録をしていただいた方にどういった役割、情報発信について幅広く携わっていただきたい。それはいわゆる市民ライターになるのか、プロの方が来てなにかをするのか、事業者の方が使ってなにかを発信するのか、多様なものが出てくると思います。そこは運営事業者の方と調整していこうと思います。いまのところは、それ以外ではなにか市民の皆様を巻き込んで情報発信していこうという取組までは出てきていません。

(オブザーバー)

それこそ食べ歩き隊とか、かなり大勢の方で組織されて、発信力が大きくなっていると伺っております。現状について、リアルレポートをお願いいたします。

(G委員)

デジタルマップもそうですし、輝く個店もそうだと思うんですけど、市の中で頑張っているところを市の人たちに届けるっていうところに市の中の情報を共有しようと思ってやっている媒体はあるじゃないですか。そういった地域メディアなど、見ている市民の人たちはいると思うので、市のドロップしたい情報を一緒に共有しませんかっていう官庁でいう記者クラブみたいな、こういうことしたいんだって応援してくれる人がいたら、手上げて、手上げた人たちに情報提供していくとか、そういう形でもいいのかなと思います。

(オブザーバー)

どういった形の問いかけが皆さんの気持ちがいままで情報が広く発信できるという形になるのか。せっかく今まで伸び伸びやられているのにその流れを止めてしまう可能性がある。

(G委員)

情報の意図は伝えるけども、その調理の仕方は任せるみたいな形でもいいと思っている。

(オブザーバー)

逆にこういう形の連携だったらうまく動けるんじゃないかというご提案があったら出していただいて、一緒に考えていけるとすごくいいかなと思います。

(G委員)

食べ歩き隊で飲食が好きな人は、4,500人いるんですけど、輝く個店全部行ってみようというツア

ーをやってみるなど、そういうのを一緒にやってみましょうというのがすごくやりやすく、すぐ集まりますから。その日でも 30 人とか。

(事務局)

プレスリリースとか記者クラブの投げ込みっていう観点でいうと、我々が投げる情報は地域メディアがつかむようにする状況が作れていて、そこをキャッチアップしていく形です。Twitter でロケ情報を意識的に出すようにしていて、インプレッションも市の Twitter のなかでもインプレッション数の高いデータがでているので、こういう撮影やりましたっていう情報をこまめに出すという努力をしています。地域メディアも結構情報を拾ってくれて、再編集をして原稿化をしていただくので、そういった意味では、市民の方に知っていただく機会を作れる、地域メディアの方とうまく連携しながら、我々のできる範囲でやっていきたいと思います。市公式ホームページリニューアルのタイミングもあり、そういった中で議題も出てきたりもしておりますので、改善の余地があるんだなと思っております。立川観光コンベンション協会との連携もホームページリニューアルするときに特集という部分を組み込んだ方がいいんじゃないか、ホームページの流入のために必要だなという意見が出つつ、コンテンツを作るのはどうするのか、スタッフの方もなかなか手が回らないので、まだ一歩先に進めていないと。では、地域メディアと組むのか、食べ歩き隊が取材をしたフェイスブックに書いているものよりも少しブログっぽくして、立川観光コンベンション協会の特集にコラボすることもできるのかな、そんな話が出たこともあるので、今後、ともに新しい作り方を考えていけたらいいなと思っております。

(副会長)

共有のステージがあるといいですね。情報交換ができる「それやってくれるの、やりたいと思っていたぞ」ということがまだまだ伝わってない。ぜひ、そういったこともでてくるいいと思います。

6. その他

(副会長)

予定された議題としては以上です。その他となっておりますが、事務局からは何かありますか。

(事務局)

本協議会は、今回で最後となり 3 月末で任期終了となります。2 年間、立川市第 3 次観光振興計画協議会の推進にご尽力賜り、誠にありがとうございました。次期協議会については、令和 5 年度、来年度からスタートいたします。立川市第 4 次長期総合計画というのが、令和 7 年 3 月までとなっております。令和 7 年 4 月、正確に言うと 6 月からかもしれませんが、また新たな第 5 次長期総合計画となっております。令和 6 年度では、だいぶ大きな検討が入ることになります。この観光振興計画につきましても、令和 7 年度以降どうするのか、という議論が令和 6 年度には始まることとなります。次期協議会の皆様につきましては、令和 5 年度は今の協議会の現計画の進捗管理なども行いつつ、令和 6 年度以降になれば、今度新しい計画をどうするのかといったような議論も始まってまいります。関係機関や関係団体の皆様は、引き続きご協力いただくことになるかと思いますがよろしくお願ひします。市民委員の皆様も引き続きのご応募可能ですので、また関わっていただけましたら、ぜひエントリーお待ちしております。ただ、応募者多数の場合は選考となりますことをご了承ください。

(副会長)

本当に皆さま、2 年間、お疲れさまでした。では、最後に E 委員より閉会の挨拶をお願いいたします。

(E 委員)

お疲れ様でした。この体制で対面は初めてですね。話があったように、人はそれなりに戻ってきていますが、立川駅に限らず、首都圏の鉄道はほぼ 8 割しか戻っていません。この状態が今後の標準と考えるしかない状況になっていて、鉄道会社は収益が厳しいと思うのですが、移動者からすると混雑が緩和されるという意味では、この状態で鉄道会社の方には収益を高めていただくということが重要と思っております。定期券利用より一時利用が増えてきているようなので、この一時利用というのが観光・レクリエーションとか、夜の飲み、そういうものに関わってくるので、上手く立川全体と

して吸収していくのが、基本戦術になってくると思います。今日、なかなか面白いなと思ったことが、自治体の観光系の会議でここまでデータの話をするのは初めてで、この面ではかなりレベルが高いなと思いました。通常は先ほどの話についてこられない人がほとんどではないかなと思いますけれど、私としては新鮮で楽しい思いをさせていただきました。それでも、データについてはもう少しやりようがあるとも思います。私自身も縁があれば、引き続き協力をしたいと思っております。この計画がいつまででしょうか。

(事務局)

令和7年の3月までが現計画の期間です。年度でいうと2年度です。

(E委員)

次の計画をどうするかということが視野に入ってくるわけですが、今まではどちらかというと、振興する、とにかく人に来ていただく、ところが中心でした。ただ、世の中の動きとしては持続可能という話や、カーボンニュートラルという話もあるので、抑制する方向も必要になってきています。そこをしっかりとしないと、今、日本の観光地がいろいろなところでこの面を配慮しているので、相対的に世の中のトレンドに合わない状況になりかねないと考えています。

いずれにしても、次の計画を立てるときは、振興する傍らでバランスが重要になってくるので、今後の議論では、アクセルを踏む部分とブレーキをかける部分をバランスよくできるといいのかなと思います。それをやるためには、データとか、人がどういう風に動いているのか、そういったことをこの場で議論できるといいのかなと思いました。